

心情や場面を想像豊かに味わう

国語科指導の工夫

～「テーマ別短歌の鑑賞」と「なりきり連作短歌の創作」を関連させて～

国語班 深澤 徹 中学校教諭

想像豊かに味わう。作品が自分に近づく。

歌人たちの短歌を作る気持ちや工夫がよくわかった。

実践後の生徒の感想

もっと短歌に触れてみたい

いつ旅が終わるか分からない。寂しい気持ちが表れている。



寂しい気持ちで歩いているところが作者の雰囲気が出ている

訛という言葉を使っているのがいいね

一つ一つの言葉を考えて選ぶ



作品の交流。特によかった短歌の選出と発表

・作者になりきる

まとめる

なりきり連作短歌の創作

齋藤茂吉 **になりきる**
 母想ひ空見上げればのど赤き玄鳥ふたつ飛び立ちにけり
 最上川これ見て思ふ亡き母の我が亡き母の古き思ひ出

石川啄木 **になりきる**
 停車場に懐かし言葉 聞こえけり ふるさとにいる友人思ふ
 ふるさとにむかふ列車の 足音は急ぐ気持ちを つのらせていく

若山牧水 **になりきる**
 幾度の旅続ければ終わるのか人となじめず寂しく思ふ
 寂しさのなくなる旅はまだ続く一人寂しき旅終わりなし

書くこと

読むこと

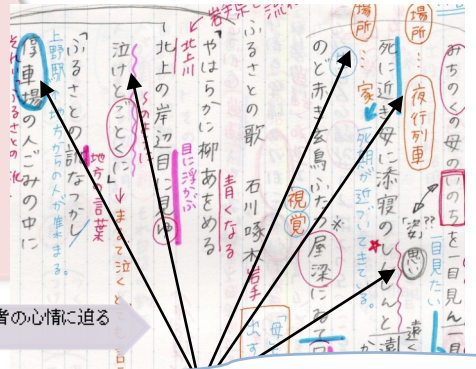
鑑賞をもとに創作

創作につながる鑑賞

心情や場面を想像豊かに味わう

成果

- 「なりきり連作短歌」の創作という目的をもって鑑賞に取り組むことで、必然的に一つ一つの言葉に意識を向けることができた。
- 「なりきり連作短歌」創作の段階で「テーマ別短歌」をじっくり読み直し、作者の心情やその短歌の場面を表す言葉に目を向ける生徒が多かった。



追究する ・作者の心情に迫る

作者になりきるための言葉（どこで詠んだか…場所、どんな思いを詠んだか…心情 など）を短歌の中からさがす。

つかむ ・作者の心情にふれる

テーマ別短歌の鑑賞

母の歌 齋藤茂吉
 みちのくの母のいのちを一目見ん一目みんとぞただにいそげる
 のど赤き玄鳥ふたつ屋梁にゐて足乳根の母は死にたまふなり

ふるさとの歌 石川啄木
 ふるさとの訛なつかし 停車場の人ごみの中に そを聴きにゆく
 やはらかに柳あをめる 北上の岸辺目に見ゆ 泣けとごとくに

旅の歌 若山牧水
 幾山河越えさり行かば寂しさにはてなむ国ぞ今日も旅ゆく
 白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ

短歌は難しい…。

教科書の作品が読めればいい

生徒作品例

読みが深まらない。作品が離れていく。